

## 展示について

江戸時代は教育が飛躍的に発展した時代です。それは、武士教育のみならず、民衆をふくめた全社会的な教育熱の高まりでした。寺子屋の全国的な普及、私塾の増加は目をみはるものがあり、山形県でも両者あわせて一千を超える存在が確認されています。

この時期は、生産技術の発展、貨幣経済の浸透、天候異変等による飢饉の発生などに加えて、政治的変動の激化した時代でもありました。その中で人々は自らを向上させようとし、家や村落を守ろうとし、また政治的社会的変革に主体的に対応しようとしたのです。ここに人々の教育や学習に対する熱意の原点があります。

今回の展示では、やまがたの寺子屋の一般的な姿を紹介するとともに、現在の山形市内では一番大きかった今泉堂、自らは江戸に遊学し郷里に帰り私塾を開いた逸見魯斎等を中心に紹介し、当時のやまがたの人々の学習状況を知ろうとするものです。

### 【主な展示】

#### ◎やまがたの寺子屋

高島町二井宿大社寺子屋絵馬

小白川天満宮奉納寺子参詣絵馬

#### ◎今泉堂（やまがたの商人の子弟が学んだ寺子屋）

天神像掛軸・今泉堂筆弟奉納筆額

今泉堂使用往来物・手習手本

#### ◎逸見魯斎塾（豪農の子弟が学んだ私塾）

『指翠堂絶句鈔』・『逸見魯斎書簡』

逸見魯斎・大沼枕山等の書画

### 【主な展示協力者】

高島町二井宿大社・山形市今泉吉平氏・山形市中村喜兵衛氏・  
山形市小白川天満宮小川春雄氏・河北町逸見彦次氏・同逸見義一氏・同逸見堅太郎氏・河北町立中央図書館・寒河江市森谷知美氏・天童市結城哲夫氏

本展を開催するにあたり御協力をいただいた方々に、厚くお礼申し上げます。

企画展

やまがたの寺子屋

変動の時代を生きる

会期

1996年

4月20日(土)～6月30日(日)

山形県立博物館

江戸時代末に日本に来た外国人は多く次のように話しています。  
「日本人は世界でもっとも教育の進んだ国民である。日本には読み書きできない人間や、国のきまりを知らない人間は一人もない」

そのころ、武士の子供は藩校などで学びましたが、それ以外の庶民の子供は、多く寺子屋で勉強しました。

昔の人はいったいどんなふうに勉強をしていたのでしょうか。

寺子屋についての質問だよ

展示をよく見て答えてね。



問1 いくつになったら寺子屋に入ったのでしょうか。

問2 入学のしかたはどんなふうだったのでしょうか。

問3 何時間くらい勉強したのでしょうか。

問4 授業終わりのチャイムはあったのでしょうか。



問5 どんな「教科書」を使ったのでしょうか。

問6 授業料はあったのでしょうか。

問7 子供たちはどんないたずらをしたのでしょうか。

問8 どんな罰があったのでしょうか。



問9 遠足はあったのでしょうか。

問10 子供たちはどんな遊びをしたのでしょうか。



よくわかったかな。



以上の問題は、『寺小屋物語』（小白川天満宮所蔵）をもとに作成しました。  
挿し絵『浮世絵のなかの子どもたち』（くもん出版）『手習出精雙六』より。